

京都第一赤十字病院で上下部消化管内視鏡検査または内視鏡治療

を受けられた患者様・ご家族の皆様へ

進行食道癌に対する胃瘻造設術の妥当性に関する後ろ向き研究研究へのご協力をお願い

実施にあたり京都第一赤十字病院医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

今回、京都第一赤十字病院は、進行食道癌に対する胃瘻造設術の妥当性に関する後ろ向き研究研究を実施いたします。そのため、過去に京都第一赤十字病院で消化管上皮性腫瘍に対して内視鏡検査・治療を受けられた患者様の診療録を過去にさかのぼって調査させていただいたり、通常の診療として行われている診断や治療の過程で得られるデータを調査させていただきたいと考えています。

研究の目的

手術不能進行食道癌患者さんの場合、初診時に通常径上部消化管内視鏡が病変部を通過することが難しくなっているケースも多く、それらの患者さんでは治療前に腫瘍増大あるいは放射線治療後狭窄後の栄養経路確保の目的で胃瘻造設を行った後に腫瘍に対する治療を行っています。しかし、患者さんによっては胃瘻を一度も使用しないまま経過することも経験するため、治療前の胃瘻造設の是非に関しては検討が必要と考えます。本研究では、放射線化学療法前の手術不能進行食道癌に対する胃瘻造設術の妥当性について検証することを目的としました。

研究の方法

- ・研究期間：研究承認日から2023年（令和5年）3月31日
- ・対象となる患者様について

京都第一赤十字病院消化器内科で2010年1月1日～2019年12月31日に進行食道癌を指摘された患者さんのうち、手術療法が適応外と判断され、放射線化学療法を選択することとなった患者さんへ本研究への参加をお願いしています。

- ・方法について

当院で保存されている過去のカルテ情報を参照して、下記の情報を取得させていただきます。取得する情報は、患者様の基本情報：年齢、性別、合併症、既往歴、現病歴、腫瘍の形態、大きさ、治療内容、治療効果、予後、胃瘻使用の有無による栄養状態などとなります。

・資料の管理について

情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧は可能です。ご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

・試料・情報の保存および二次利用について

本研究に用いられる情報（診療記録、各種文書類および電子的記録）は、論文等の発表が行われてから10年保管し、適切に廃棄します。本研究において取得した情報は、研究代表者 土肥 統の下、鍵のかかるロッカーに保管、責任をもって管理します。パソコンで管理する場合、ネットワークから遮断した状態で行います。

新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

（実施責任者）	京都第一赤十字病院	消化器内科	木村浩之
（実施担当者）	京都第一赤十字病院	消化器内科	戸祭直也
	京都第一赤十字病院	消化器内科	山田真也
	京都第一赤十字病院	消化器内科	中野貴博

情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、令和5年3月31日までに下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

本研究は、京都第一赤十字病院倫理審査委員会において、適切な研究であると承認されています。この研究計画についてご質問がある場合は下記までご連絡ください。

連絡先

京都第一赤十字病院消化器内科

副部長 戸祭 直也

電話：075-561-1121

研究責任者： 京都第一赤十字病院消化器内科

部長 木村浩之